

検査項目		意義
梅毒 感染症	TPHA法	梅毒に感染しているかを調べます。結核、膠原病など梅毒以外でも陽性（偽陽性）になることがあります。2種類の異なった抗原を用いて判断します。
	RPR法（凝集反応）	
腫瘍 マーカー	体内に腫瘍（主にがん）ができると増える特別な物質です。腫瘍の種類や部位に必ずしも特異的ではありません。早期がんでは陰性のことが多い反面、がんが無くても陽性となる場合があるため、診断には注意が必要です。	
	CEA	消化器系、特に大腸がん診断の目安となります。
	AFP	肝臓がん（原発性肝臓がん）診断の目安となります。
	CA19-9	消化器系、特に膵臓がん、胆のう・胆管がん診断の目安となります。
	PSA	前立腺がんの診断に有用です。前立腺肥大、前立腺炎でも上昇することがあります。
	CA125+HE4	卵巣がんの発症を推定することができます。従来のCA125単独検査よりも卵巣がんの感度・特異度が向上します。
心臓 機能	BNP （脳性ナトリウム利尿ペプチド）	心臓に負荷がかかっている時に心室から分泌されるホルモンで、これを測定することによって心臓の元気度が分かります。（潜在的）心不全の診断に有用です。

尿検査項目の解説

尿一般検査

検査項目	意義
尿糖	糖は通常では尿中にはほとんど含まれません。糖尿病や腎臓の病気の発見の手がかりとなります。
尿蛋白	蛋白は尿中にはほんのわずかな量しか含まれていませんが、腎臓に障害が起こると尿中に漏れ出てしまいます。ただし、激しい運動・入浴・過労等でも陽性になることがあります。
ウロビリノーゲン	肝臓や胆嚢の働きをみます。ほとんどが便と一緒に排出されますが、わずかに尿中に含んでいる状態が正常です。肝臓の病気や便秘などで増加します。
尿潜血	赤血球は腎臓でろ過されないため、尿中には殆ど含まれず、腎機能の障害をみる指標になります。ただし、尿管・膀胱・尿道等の異常の場合にも潜血がみられます。
尿沈査 （赤血球・白血球・上皮）	腎臓・尿管・膀胱の炎症や腫瘍などで出現します。
尿沈査（円柱）	腎臓の障害時に出現し、精密検査をする場合があります。

便検査項目の解説

便検査

検査項目	意義
ヒトヘモグロビン	下部消化管（大腸、直腸）からの出血の有無を調べる検査です。1回でも陽性の時は精密検査を要します。